JADCI* News

NO. 1

1990. 2. 1

*The Japanese Association for Developmental and Comparative Immunology

Office: Department of Anatomy, Dokkyo University School of Medicine, Mibu, Tochigi 321-02
Telephone: 0282-86-1111, Fax: 0282-86-6214

年頭所感

会長　村松　繁

１９８９年は世界中が大揺れに揺れた年であった。それらの大揺れに比べれば、はたから見れば微震とも感じられないだろうが、われわれにとってはＪＡＤＣＩの発足と第１回学術集会の開催という歴史的な激震があり、その会長という霹靂が私を直撃した。

私はキャッチフレーズ造りが大好きな性分であり、１９６０年頃から１９８０年末までの免疫学を第２期免疫学、１９９０年以降のそれを第３期免疫学と呼ぶことを提唱している。第２期免疫学をつづめて言えば、遺伝学をベースにしたヒトおよび高等哺乳動物のリンパ球分類および反応学であったということになろう。必然的に（？）、免疫学でもその主流から外れたものは、何となく肩身もせまく淋しい思いをしてきた。比較免疫学など、その最たるものであったのではなかろうか。しかし、流石に繁栄を誇った第２期免疫学もそろそろ煌々たる夕焼けを経て黄昏の時期にさしかかっているように思われる。

第３期免疫学とは何か。免疫を高等哺乳類のリンパ球学であるという狭い量見と訣別することから始めて、それをも包含しつつ、生体の高次調節を、もっと生理学的に、もっと発生学的に、もっと進化学的に考究する学問分野である。それゆえ、比較免疫学においても、従来の第２期免疫学における固定観念にもとずいた研究課題を、単に下等動物や幼若動物に求めるというだけでなく、神経、内分泌、レクチン etc. をも含め、研究する動物の種類や齢の幅を広げ、動物界全体の高次調節学を樹立することを目的としなければならない。

一年の計は元旦にある。もう元旦からかなりの日が経ってしまったが、　これが１９９０年代の最初のニュースレターであるので、あえて大風呂敷を拡げた所感を述べさせていただいた。

日本比較免疫学研究会第１回学術集会を終えて

副会長　　友永　進

１９７６年以来日本動物学会の関連集会として継続してきた“比較免疫学シンポジューム”を、さらに発展させた組織として１９８９年に発会した“日本比較免疫学研究会”の第１回学術集会は、１９８９年１１月２８、２９日に東京都内のエーザイホールで開催された。理学、農学、水産学、医学、薬学等いろいろな分野の研究者が集い、２９題の演題に対して活発な討論が行われ実り多いまさに学際的な研究会であった。演題の２／３が無脊椎動物に関するものであったことは第１回学術集会を特徴づけることの一つであったと言えよう。国際比較免疫学会(ISDCI) 役員の一人であるEdwin L. Cooper 教授（カリフォルニア大学）が遠路参会され、Evolution of the immune systemと題して特別講演をされた。いろいろな話題に花が咲いた懇親会では新しい友ができたことが収穫であったと思う。この学術集会の準備、当日のいろいろな世話に関しては、庶務・会計役員の古田恵美子先生、プログラム役員の和合治久先生、それに独協医科大学の諸先生および多くの若手研究者の方々の献身的なご苦労があったことをここに記すと共に会員の皆さんと共に深く感謝したい。また講演要旨集の広告の形で我々の研究会に協賛いただいた諸企業および会場の便宜をはかっていただいたエーザイ（株）に対しても感謝の意を表したい。

第１回学術集会に続いて、１１月３０日に湯島会館東京ガーデンパレスにおいて、日本比較免疫学研究会と（財）水産無脊椎動物研究所の共催の形で、シンポジューム“水産無脊椎動物の生体防御”が開催された。種々の水産無脊椎動物の生体防御系に関する問題点や免疫系の進化に関する問題点が熱心に討議された。このような分野のシンポジュームはわが国では初めての企画であった。水産国日本にあって、この分野の研究がさらに発展することを願ってやまない。また、この分野に対する（財）水産無脊椎動物研究所からの継続した支援も期待したい。

日本比較免疫学研究会(JADCI) は学際的な集りの必要性と、国際比較免疫学会(ISDCI) の地域分科会的な組織の必要性から誕生した。我々もISDCI 発展のためにJADCI の事業を通じて貢献できることを願っている。研究会の発会によせてISDCI 役員諸氏から祝賀の便りをいただいた。しかし、残念ながらISDCIの常任委員会(Executive Committee) における日本の評価は低いのが現状であ

る。そのことはISDCI Bulletin No.3(1989年10月発行）に印刷されている会則の改正に関連して行われた会員の地域別分類に示されている。即ち、そこでは世界を(1)Europe,(2)the Americas,(3)Rest of the Worldの３地域に分類し、日本をはじめとするアジアの会員とアフリカの会員を(3) に入れている。Restとはあまりにも我々を無視した表現ではなかろうか。(3) の地域からは国際学会への参加も少なくISDCI にとってはRestだと言われても仕方がない面があることは認めよう。しかし、(3) の地域にもAfrica, AsiaそしてOceania と言う地名があることと、日本を含めてこの地域の研究のポテンシャルの存在を忘れてもらいたくないものだ。　問題の分類に対しては、(1) Europe and Africa, (2)the Americas,(3)Asia and Oceania の案を提示して抗議を申し出ておいた。何らかの形に改められることを願っている。ISDCI 会員の皆さんはどのように感じられたであろうか？　このようなISDCI の現状において、日本から次期会長候補を出すことの意義は大きいと考え、候補になることをいやがられる村松繁先生(JADCI会長）をしつこく口説いて次期会長(President-Elect;1990-1992)候補に推薦した。選出されることを祈っている。

今回もさらに将来も我々の研究会で発表された講演の英文Abstracts は国際誌Developmental and Comparative Immunology(DCI) に掲載される予定である。会員の皆さんの優れた研究をDCI に載せることによってRestとは表現できない存在であることを早く認識してもらいたいと思う。　（もっともRestの問題はISDCI 庶務の国際感覚の問題とも言えようが。）

第１回学術集会について小文を書くようにとの事務局からの依頼であったにもかかわらず少々余分なことまで書いてしまったようだ。これも会の発展を願ってのこととお察し願いたい。第１回学術集会ではたくさんの人と出会い、さらにいろいろな勉強をさせていただいた。今年８月の第２回学術集会で再び多くの会員の皆さん方とお会いできることを祈っている。

日本比較免疫学研究会第１回総会議事録

日時：１９８９年１１月２８日
会場：エーザイホール５階
出席者：２７名（欠席役員：野本亀久雄、栃内　新）

1)第１回総会開会宣言および司会者の指名（古田）
　司会者を友永先生にお願いする。

2)会長挨拶（村松）
　研究会発足の経緯など。

3)会務報告（古田）
　１．ＩＳＤＣＩ国際会議の日本での開催の可能性について、1988年２月にE.L. Cooper教授を交えて話合いがもたれたことが研究会発足のきっかけとなったこと。
　　ＪＡＤＣＩが32名の組織委員により準備・検討され、役員が選出されるまでの経緯。

　２．第１回学術集会が開催されるまでの会計報告（概算）。

　３．会長選挙の件
　　役員会('89.11.28) にて次期会長に村松氏を推薦。
　　1989年末までに全個人会員による会長選挙を行なう旨の報告。

　４．第２回学術集会開催の件
　　1990年８月28、29日（予定）、エーザイホールで開催したい旨の報告があり、承認される。

　５．その他、懇親会('89.11.28) の件とタクシー（エーザイホール～東京ガーデンパレス）に関するお知らせ。

4)会計報告の件（友永）
　会計報告は1990年４月以降に行なう。（会計年度は毎年４月１日より翌年の３月３１日）

5)学術集会の抄録をＤＣＩに掲載する件（友永）
　全口演のabstractをＤＣＩに掲載する予定である。ただし、ＤＣＩの編集方針に従い、abstractはreviewされた後、会長によるintroductionが加えられる。
　４名分のabstractが１ページ（Ｂ５版）に掲載される予定。
　印刷費用は１ページ当り約１００$の見込み。

6)第１回学術集会開催に当り、ＩＳＤＣＩ役員から寄せられた手紙の紹介（友永）

7)賛助会員の件（友永）
一口２万円で承認される。
もう少し高額の方が良いのではないかとの意見も出されたが、広く会員を求めるためにやや低額かもしれないが一口２万円とし、各会員にはなるべく多くの口数をお願いするとのことで承認される。

8)プログラムの件（和合）
和文要旨集における英文演題およびkeywordsの記載の必要性などに関しての提案がなされた。

9)シンボルマーク募集の件（和合）
シンボルマーク募集の案内（事務局宛て、1990年３月31日締切り）がなされた。

10）追加報告とお願い（友永）
１．アジア・オセアニア地域の研究者を把握したい旨の報告があり、会員に協力を依頼したいとのお願い。

２．ＩＳＤＣＩの1994年日本開催の件と、ＩＳＤＣＩ会長選挙(1990 年１月)に際してＪＡＤＣＩ会長（村松　繁）を会長候補として推薦したい旨の報告がなされた。

質疑

１．ＩＳＤＣＩの1991年のmeeting の期日に関する質疑。

２．アジア・オセアニアの研究者がＪＡＤＣＩに参加した場合の公用語に関する質疑。日本語と英語の併用でも可能ではないかとの意見が出された。

３．ＤＣＩの雑誌に掲載するabstractの形式に関する質疑。
再検討する旨の返答が抄録委員（友永）よりなされた。

４．ＪＡＤＣＩへの入会を各方面に広く呼びかけて頂きたい旨のお願いが役員（和合）からなされた。

会長選挙の投票結果および役員の決定についてのお知らせ

先の会長選挙(1989.12.25.締切り）については、12月27日開票を行い（立会人：小林　睦生、和合　治久、山口　恵一郎）、その結果下記の通り村松繁氏に決定いたしました。

また、役員は新会長の委嘱により次の方々にお願いすることになりました。

記

会長選挙・投票結果

村松　繁	５９票
粟屋　和彦	３票
片桐　千明	３票
野本　亀久雄	２票
友永　進	２票
神谷　久男	１票
楠田　理一	１票
丹羽　允	１票
渡邊　浩	１票

計７３票（無効３票）

会長および役員

会長――――――――村松　繁
副会長――――――――友永　進
プログラム委員―――野本　亀久雄
和合　治久
抄録委員――――――田中　邦男
庶務・会計――――――古田　恵美子
会計監査――――――渡邊　浩
栃内　新
（任期：1990.4.1～1992.3.31）